

神奈川県高体連 バスケットボール専門部

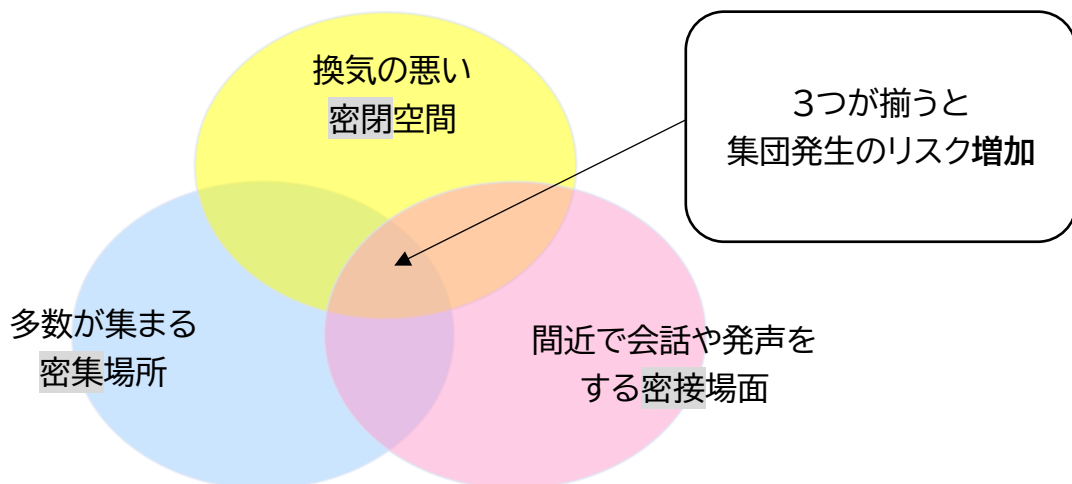


大会実施に係る新型コロナ 感染予防対策ガイドライン

バージョン 7.0

(2022年4月4日修正)

安全に大会運営を進めるにあたり、集団発生を起こしやすい
「**3密**」を避けるよう、心掛けてください。



1	はじめに	・・・P. 1
2	大会開催時の感染防止策について	・・・P. 1
	(1) 全般的な事項	・・・P. 1
	(2) 大会当日までの体調の確認方法	・・・P. 1
	(3) 大会に参加する全ての者（生徒・顧問・役員等）のマスク等の準備について	・・・P. 3
	(4) 感染症拡大防止の対策のための競技運営方法について	・・・P. 4
	(5) 感染症拡大防止の対策の徹底について	・・・P. 5
	(6) 熱中症対策について	・・・P. 5
	(7) 冬場の対策について	・・・P. 6
	(8) 大会中止の判断について	・・・P. 6
3	大会会場で準備すべき事項	・・・P. 7
	(1) 手洗い場所について	・・・P. 7
	(2) 更衣室および審判控え室について	・・・P. 7
	(3) トイレについて	・・・P. 7
	(4) 飲食について	・・・P. 8
	(5) 会場について	・・・P. 8
	(6) ゴミの廃棄について	・・・P. 8
4	新型コロナウイルス感染症を罹患及び罹患の疑いがある場合の対応について	・・・P. 9
	(1) 大会前の各学校における対応	・・・P. 9
	(2) 大会当日の各会場における対応	・・・P. 9
	(3) 大会終了後2週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合の対応	・・・P. 10
	(4) 濃厚接触者となった場合の対応	・・・P. 10
5	審判員について	・・・P. 11
	(1) 大会当日までの流れについて	・・・P. 11
	(2) 大会当日の流れについて	・・・P. 11
	(3) 大会当日に体調不良者が出た場合の対応について	・・・P. 11
6	その他	・・・P. 12
	(1) 往復の移動について	・・・P. 12
	(2) 顧問が生徒に用意させるものについて（依頼）	・・・P. 12
	(3) 消毒グッズについて	・・・P. 12
	(4) J B Aからの推奨項目について	・・・P. 12
	(5) オミクロン株（BA.1株）への対応について	・・・P. 13
7	大会前～大会当日～大会後までの流れ（表）	・・・P. 14

1 はじめに

神奈川県高等学校体育連盟バスケットボール専門部は、新型コロナウイルスの感染拡大のリスクを最大限に排除し、選手・チーム、指導者、審判、運営スタッフ、それらの方のご家族が安全に活動できる環境を提供するため、新型コロナ感染症防止対策ガイドラインを策定し、それに基づき安全な大会運営を行っていきます。

本ガイドライン作成にあたっては、JBA（日本バスケットボール協会）による活動再開に向けたガイドライン及び神奈川県高等学校体育連盟による新型コロナウイルス感染症防止ガイドラインに基づき、バスケットボール競技の特性を考慮し作成しています。

また、当面の大会運営につきましては、感染防止の観点から無観客での実施とします。

なお、本ガイドラインは、新たな感染症対策の情報や、神奈川県の感染状況等により、適宜改定します。

2 大会開催時の感染防止策について

(1) 全般的な事項

本ガイドラインを関係者に周知し、遵守すべき事項を整理したうえで、チェックリストを作成する。さらに、本ガイドラインを大会会場に必ず配置するとともに、チェックリストを用いて大会運営を行う。

チェックリストとは以下のことをいう。チェックリストはガイドラインの手引きに掲載することとする。

- ・顧問用チェックリスト→顧問が印刷して持参し、試合終了後チェックリストに学校名を記入し、帰宅前に大会本部役員に提出する。
- ・コート主任用チェックリスト→当日の運営終了後、大会本部役員に提出する。
- ・審判主任用チェックリスト→当日の運営終了後、大会本部役員に提出する。
- ・大会本部役員用チェックリスト→当日の運営終了後、大会本部役員が他のチェックリストと一緒にとりまとめ、コート主任に渡す。

このチェックリストは各会場で用いられ、大会運営が安全に運営されているかを確認するものである。安全対策委員が、コート主任からチェックリストを回収し、その後大会最終日から30日間専門部で保存する。

感染対策責任者を次のように定める。

- ・顧問をチームの感染対策責任者とする。
- ・コート主任を会場の感染対策責任者とする。

(2) 大会当日までの体調の確認方法

万が一感染が発生した場合に備え、個人情報の取扱いに十分注意しながら、当日の試合開始までに次のような対応を行う。

- ① 生徒は、大会参加2週間前からの健康状態を大会当日の朝まで「健康観察票」【各学校で使用しているもの】で管理し、大会当日朝、事前に保護者の承諾を得た上で「生徒の健康状況チェックシート及び参加確認書」【別紙1】に必要事項を記入し、当日の会場に入る前に顧問に提出する。

※会場に入る前というのは、体育館棟またはその付近（ピロティのようなスペースのある場所）という意味であり、正門の前に人が大勢いることは近隣の住民の迷惑になるため、学校の敷地内での確認をお願いします。

※印鑑を忘れた生徒は、保護者の確認ができないため会場に入ることはできません。

※寮生や留学生の場合は、生活上の責任者の印をお願いしてください。

- ② 顧問は、学校長の指示のもと、「参加校状況報告書」【別紙2】を作成する。大会当日生徒が会場に入場する前に当日の生徒の健康状態を【別紙1】を用いて確認する。また、会場入場前に顧問が自チームの生徒全員の検温を、非接触型体温計を用いて行い、【別紙2】に状況を記入する。顧問自らの健康状態も確認した上で会場にいる大会本部役員へ提出する。
- ※顧問は、生徒だけが先に入場することがないように、必ず生徒入場前に来場すること。
- ※入場時に発熱のある生徒がいた場合、顧問は保護者へ連絡し、当該生徒を安全に帰宅させ、症状がなくなるまで自宅休養するよう指導する。
- ※非接触型体温計はなるべくチームで持参してください。用意できない場合は大会本部役員に連絡し、会場校のものを使用する等の対応をしてください。
- ③ 専門部は、会場ごとの役員一覧を事前に作成し、各会場のコート主任に周知しておく。大会本部役員は、当日朝の時点で、役員一覧と「顧問・大会役員健康状況確認表」【別紙3】を確認し、運営にあたる。
- ④ 専門部は、各会場で提出された【別紙2】、【別紙3】を回収し、大会最終日から30日間保存する。また、大会中及び大会後30日以内に感染者が出た場合は、生徒・顧問・役員の体調を書面により確認し、大会当日の日程、待機場所、運営の詳細等を把握し、感染が判明した時点で速やかに関係機関に連絡できるよう体制を整えておく。
- ⑤ 顧問は、回収した【別紙1】を大会最終日から30日間保存する。また、大会中及び大会後30日以内に感染者が出た場合は、大会当日の日程、生徒の行動記録等を、各校で把握し、感染が判明した時点で速やかに専門部に連絡する。
- ⑥ 生徒・顧問・役員・審判は、大会前2週間における次の症状の有無を確認する。また、次の症状が数日間継続した際は、医療機関に受診する。
- ア 平熱を超える発熱（おおむね37.5度以上）
- イ 咳（せき）、のどの痛みなど風邪の症状
- ウ だるさ・疲れやすい（倦怠（けんたい）感）、息苦しさ（呼吸困難）
- エ 嗅覚や味覚の異常
- ・生徒は【別紙1】で大会2週間における症状の有無を記載する。
 - ・顧問・役員は「顧問・役員健康チェックシート（自己管理用）」で大会2週間における症状の有無を記載する。
 - ・審判は「審判員健康チェックシート（自己管理用）」で大会2週間における症状の有無を記載する。
- ⑦ 次の事項に該当する者は参加を認めない。（【別紙1】、「顧問・役員健康チェックシート（自己管理用）」、「審判員健康チェックシート（自己管理用）」にて確認）
- ア 体調が良くない場合。（例：発熱・咳・咽頭痛などの症状がある場合。）
- イ 同居家族に新型コロナウイルスの感染が疑われる方がいる場合。
- ウ 過去14日以内に新型コロナウイルス感染症陽性とされた者との濃厚接触がある場合。
- ただし令和4年3月時点で主流になっているオミクロン株に関するものについては別項（P.13）の通り対応する。
- エ 過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合。
- オ 大会前4日以内に37.5度以上の発熱があったもの。
（ワクチン接種の副反応による発熱であっても認められない）

⑧ 当日回収する別紙は次のとおりである。なお保存期間は大会最終日から 30 日間とする。

○顧問が回収して保存する

【別紙 1】「生徒の健康状況チェックシート及び参加確認書」

(生徒の健康状況を確認し保護者の承諾書を含めたもの)

○大会役員が回収し、回収袋を専門部へ渡し、専門部が保存する

・【別紙 2】「参加校状況報告書」

(顧問名で参加する生徒と顧問等の状況を把握した報告書)

・【別紙 3】「顧問・大会役員健康状況確認表」

(役員等の当日の健康状況を把握した一覧)

・審判関係書類「審判員健康チェックシート(提出用)」

・各チェックリスト 顧問用・コート主任用・大会本部役員用・審判主任用

(3) 大会に参加する全ての者(生徒・顧問・審判・役員等)のマスク等の準備について

① 顧問は生徒がマスクを準備しているかを会場に入る前に確認すること。万が一、マスクを忘れたり壊れたりしてしまった場合は、顧問が大会本部役員に報告し、予備のマスクを大会本部役員より受け取り当該生徒に渡す。

② 参加の受付、着替え、試合中のベンチにいるとき、ミーティング、閉会式、表彰式などの運動を行っていない際は、マスクを着用すること。また試合中の T0(モップラー含む)を行う場合もマスクを着用すること。

※試合中交代で戻ってきた場合は、息が整った状態でマスクを着用させてください。息が整っているが、マスクをせず、大きな声で選手への指示等をしているということを避けてください。

③ 会話時にマスクを着用するなどの感染対策に十分に配慮すること。特に大きな声での会話、応援等はしないこと。

※マスクは、プレー中以外は「不織布」マスクを推奨します。プレー中に装着する場合は熱中症および脱水症予防の観点から「布・ウレタン」マスクを推奨します。

※感染リスクが高まる「5つの場面」には「マスクなしでの会話」が含まれていることから、受付、着替え、表彰式等の運動・スポーツを行っていない間、特に会話する時には、マスクの着用をすること。

④ 試合に出場する等でマスクをはずす場合、そのマスクを他者が触れないよう、マスクの管理に十分に注意すること。(マスクの管理ができる個人用の袋を用意すること。)

※マスク以外にも Tシャツやタオル等の個人のものについても他者を介さず、自分で管理すること。

※かごを使って個人の所有物を分けて管理するなど工夫する。

※交代後選手が呼吸を整えるためのエリアを設置し、呼吸が整った後マスクをつけるようにする。

※上記エリア内では声を出すことはできない。

⑤ マウスシールドは飛沫防止の観点や、安全性の確認が取れていないため、必ずマスクを着用すること。

(4) 感染症拡大防止の対策のための競技運営方法について

- ① 原則1日に4試合を消化し、時程は以下の通りとする。また、1・2試合目と3・4試合目の間で生徒の入れ替えを行う。そのため、2試合目と3試合目の間は30分確保する。
- ② 試合前のウォーミングアップは各前の試合終了後30分確保する。ハーフタイムのアップはフロアでは行わない。
- ③ メンバー表の提出は試合開始30分前にオフィシャルに提出する。

【時程例】	1 試合目	9 時 00 分	T0	2 試合目の両チーム	} 男子チームのみ
	2 試合目	11 時 00 分	T0	1 試合目の両チーム	

生徒の入れ替え(30分)					

	3 試合目	13 時 30 分	T0	4 試合目の両チーム	} 女子チームのみ
	4 試合目	15 時 30 分	T0	3 試合目の両チーム	

※原則開場は1時間前です。日程表に開場時間が記載されているので、それに従ってください。

※午前と午後で入れ替えを行う際、更衣室が密にならないよう、複数の更衣室を用意することや、スムーズに入れ替えが出来るよう、生徒への呼びかけなどをお願いします。誘導は大会本部役員と該当チームの顧問の先生で協力をお願いします。

※試合がある部員数の多いチームは、分散して時間差を設けて会場に来させることや、T0をする生徒と分けて会場入りするなど、各学校での工夫をお願いします。人数が多いため、一度に来校させると控室等「密」になるとの指摘がありました。「密」を避けるための工夫は柔軟に対応してください。ただし、分散させて生徒を来させる場合、その時間に依じて、**生徒を体育館外に集合させ、その都度健康チェックおよび入場前の検温を必ず行ってください。**バラバラと生徒が体育館に入場してくることのないようご注意ください。【別紙2】に関しては各学校で1枚の提出で大丈夫です。来校した合計生徒人数を記入して、提出してください。

※会場に入れるのは、選手・チーム関係者・審判・本部役員（会場の消毒等の仕事を行う）等の役員のみです。それ以外の方は専門委員であっても感染予防のため、会場に入ることはできません。また、選手については、参加申込書に記載されている者だけが入れます。

※生徒だけでなく、顧問・コーチ等も不用意に会場に長居することがないようにお願いします。他会場でのスカウティング行為は禁止していることから、スカウティング行為として受け取られてしまいます。

感染防止を第1優先とし、また、学校ごとに有利不利が出ないように十分に配慮するよう、よろしくお願いします。（ただし、自チームがいることのできる時間内でのビデオ撮影に関しては、特に制限はしていません。

(5) 感染症拡大防止の対策の徹底について

- ① こまめな手洗い、アルコール等による手指消毒を実施すること。
- ② 定期的な共用場所の消毒及び共用物の消毒を実施すること。
※ 消毒に必要なものに関しては専門部で用意し、各会場に配布します。
- ア 試合終了後各チームのベンチ席および応援席は、使用したチームで消毒を行う。
(各チームで雑巾 or ペーパータオルを用意し、安全にかつ速やかに消毒を行うこと)
- イ 試合終了後、T0 をしたチームは、T0 をする際に使用したイス・モップ・得点版・計器類のボタン部分等の消毒を行う。
- ウ 午前と午後の人入れ替えの際、更衣に使用した場所等を顧問および大会本部役員が消毒を行う。
※ボールの消毒に関しては、ボールそのものの劣化を招く可能性があるとしてされています。詳しくはお使いの各ボールメーカーの「お手入れ方法」に従ってください。
- ③ 他の生徒や役員等とのソーシャルディスタンスを取る。円陣を組むことも密になることから、間隔をあけて行う等の工夫をする。
- ④ 試合前後または試合中に、握手、ハイタッチ等の接触はしない。(審判等への握手もしない。)
- ⑤ 屋外でのアップ中も含めて、運動中に唾や痰を吐くことはしない。また、大声を出してのアップや、試合中の応援等もしない。試合中の必要な声掛けや、選手への指示など必要な場面は声を出すことは可。
- ⑥ タオルの共用はしない。(振り回さない)
- ⑦ 外靴は履き替えた後、必ず外履き用の袋にしまうこと。外履き用の袋を持っていない場合は、専門部で用意したビニール袋を用いること。特に、バッシュケースに外靴をしまうことのないようにすること。
- ⑧ 大会の前後のミーティング等においても、3密を避けること。
- ⑨ 感染防止のために主催者が決めたその他の措置の遵守ならびに主催者および各会場の指示に従うこと。また、各事項が遵守されているか会場内を大会本部役員が定期的に点検する。
- ⑩ 公共施設利用の場合は、事前の打ち合わせ等で施設のガイドラインに従い対応すること。

(6) 熱中症対策について

- ① 特に夏場においては、各部屋の窓、ドアの開放をする。
- ② 参加者全員にマスク着用を義務化するため、熱中症を発症するリスクが高まるので、こまめな水分塩分補給に心がけること。
- ③ 体調に異変が生じた際は、速やかに申し出て、無理をせず、早期に対応できるようにすること。

[熱中症の症状および対応]

	症 状	対 応
軽度	めまい、たちくらみ、筋肉痛、汗が止まらない 等	涼しい場所で体を冷やし水分塩分補給
中等度	頭痛、吐き気、倦怠感、虚脱感 等	自力で水分補給できない、症状が改善しないときは救急車を要請してください。
重度	意識不明、けいれん、高体温、反応に異変、歩行不能 等	速やかに救急車を要請してください。

(7) 冬場の対策について

- ① 冬場も換気等の感染防止に努める必要はあるものの、窓の開けっぱなしによって屋内の気温が低下してしまい、体が冷え体調不良や怪我がおこりやすくなることのないよう十分に配慮すること。具体的には、寒すぎる場合は暖房を活用し、屋内の温度調節を行うこと。
- ② 防寒着を工夫して着用することで、冷えなどによる体調不良を防ぐよう、チームごとに注意をすること。また、防寒着の貸し借りは行わないこと。
- ③ 鼻水等の症状があり鼻をかむ場合のティッシュのごみは個人で持ち帰り、会場に置いていくことのないよう注意する。

(8) 大会中止の判断について

- ① 政府および地方公共団体より「緊急事態宣言」が発出された場合、大会の中止を検討する。
- ② 大会参加全チームのうち 10%が棄権した場合、大会の中止を検討する。(JBA ガイドライン 9/9 版 p. 25)
※支部および男女を区別せず、全体の参加校を対象とする。該当支部のみや片方の性別のみではなく、大会全体を中止または延期とする。
- ③ 棄権チーム数は累積計算とし、棄権チーム数が 10%に達した時点で大会の中止を検討するが、それぞれの大会に応じて以下のように累積計算を行うこととする。
 - ア 関東大会予選および総体予選
支部予選開始から県予選終了まで比較的期間が短いため、支部予選から県予選を通じて棄権チーム数をカウントし、支部予選からの全参加チーム数を母数として計算する。
 - イ 新人大会
支部予選終了から県大会開始まで期間が長いため、支部予選と県予選を分けて棄権チーム数をカウントする。支部予選は全参加チームを母数とし、県予選は県予選に出場しているチームのみを母数とし計算する。
- ④ 大会途中で棄権チームが出た場合、すでに負けたチームが繰り上がることは無く、棄権チームの次戦が不戦敗扱いとなる。同じく、支部予選の代表決定戦で両チームが棄権した、もしくは出場権を得たチームが県大会抽選会前に棄権した場合は、県大会の山型を変えず、棄権チーム分を空きにして抽選を行う。

3 大会会場で準備すべき事項

※会場で使用する石鹼、消毒液、掲示物、等に関する消毒グッズは専門部で用意します。掲示物に関しては各会場に配布し掲示してください。

※非接触型体温計は会場校分用意しておりません。各会場校で準備をお願いします。

(1) 手洗い場所について

- ① 手洗い場には石鹼（ポンプ型が望ましい）を用意すること。
- ② 「手洗いは30秒以上」等の掲示をすること。
- ③ 手洗い後に手を拭くためのタオルを各自用意すること。
- ④ 手洗いが難しい場合は、アルコール等の手指消毒剤を用意すること。

(2) 更衣室および審判控室について ※更衣室での三密は避ける

※更衣室（シャワー室を含む）、休憩・待機スペースは感染症リスクが比較的高いと考えられることに留意する。また、感染リスクが高まる「5つの場面の1つとして「居場所の切り替わり」が挙げられ、更衣室や休憩スペース等では環境の変化により感染リスクが高まることがあるとされている。

- ① ソーシャルディスタンスを取り、他の参加者と密になることを避けること。
- ② ソーシャルディスタンスを取ることが難しい場合は、一度に入室する人の数を制限する等の措置を講じること。（更衣室の利用者は、滞在時間を短くするため着替えのみとする。）
- ③ 室内又はスペース内で複数の参加者が触れると考えられる場所（ドアノブ、ロッカーの取手、テーブル、イス等）については、こまめに消毒すること。
- ④ 換気扇を常時回し、換気用の小窓を開ける等、換気に配慮すること。
- ⑤ シャワー室等の使用は禁止する。
- ⑥ 入退室の前後での手洗いを促すこと

(3) トイレについて

※洗面所（トイレ）についても感染リスクが比較的高いと考えられることに留意する。

- ① トイレ内の複数の参加者が触れると考えられる場所（ドアノブ、水洗トイレのレバー等）については、こまめに消毒すること。
- ② トイレの蓋を閉めて水を流すよう表示すること。
- ③ 手洗い場には石鹼（ポンプ型が望ましい）を用意すること。
- ④ 「手洗いは30秒以上」等の掲示をすること。
- ⑤ 手洗い後に手を拭くためのタオルを各自用意すること。

(4) 飲食について

- ① 飲食物を手にする前に必ず、手洗いまたは手指消毒を行い、清潔な状態で飲食すること。
- ② 各会場での食事は必要最低限にとどめ、指定場所以外で行わず、周囲の人とソーシャルディスタンスを取って対面を避け、会話は控えること。
- ③ 生徒の飲食は、参加校の責任において飲食させ、ゴミはすべて持ち帰らせること。
- ④ 飲料のペットボトル等の共用（回し飲み）は、厳に慎むこと。
- ⑤ 飲みきれなかったスポーツドリンク等を指定場所以外に捨てない。

(5) 会場について

- ① 会場では、換気の悪い密閉空間とならないよう、十分な換気を行うこと。
- ② 換気設備を適切に運転すること。
※高温や多湿な状態では換気に加えて、大型扇風機や気化熱冷風機等を使用することが望ましい。
- ③ 定期的に窓を開け外気を取り入れる等の換気を行うこと。
- ④ 体調不良者用の待機場所を設置し、体調不良者と他者の接触がないようにすること。
ア 試合前後で体調不良者が出た場合、コート主任および大会本部役員の協力を仰ぎ、顧問が対応をする。
イ 試合中に体調不良者が出た場合、コート主任および大会本部役員の協力を仰ぎ、大会本部役員が対応をする。試合終了後は大会本部役員から顧問に引き継ぎ、顧問がそれ以降は対応をする。
※体調不良者を対応する者は、必ずマスク装着するなど二次感染を防止した上で、他者を近づかせない配慮を行う。その後、非接触型体温計での検温及び体を冷やすなど体調不良者が楽な体勢をとらせる。顧問は保護者と連絡を取り、安全に帰宅できるまで対応する。
- ⑤ ウォーミングアップ場所についてはコート主任の指示に従い、3密を避けた場所を確保すること。
- ⑥ コート設営図は【別紙4】の通りに設営すること。
※ベンチの反対側の応援席のレイアウトに関しては、会場校の判断で椅子を増やしたり、減らしたりしてもらって構いません。必要に応じて変更してください。
※ベンチエリア外に、選手が交代後に呼吸を整える為の一時待機するエリアを設置する。

(6) ゴミの廃棄

- ① ゴミは各自持ち帰ること。会場内にゴミ箱は設置しない。
- ② ゴミをチームで回収する際は、ビニール袋に入れて密閉して縛り、ゴミを回収する人はマスクや手袋、ごみばさみなどを使用すること。
- ③ マスクや手袋をはずした後は、必ず石鹸と流水で手を洗うか手指消毒すること。

4 新型コロナウイルス感染症を罹患及び罹患の疑いがある場合の対応について

(1) 大会前の各学校における対応

原則として、学校に登校している生徒のみ参加可とする。

① 【大会に参加する部活動の生徒が罹患した場合】

校長は該当生徒の試合参加の辞退を専門委員長に連絡し、専門委員長は高体連事務局に報告する。

② 【大会に参加する部活動の生徒が濃厚接触者となった場合】

ア 当該生徒等に対して「感染者と最後に濃厚接触をした日から起算して2週間程度の出席停止」の措置をとる。(※保健所の指示に従うこと)

イ それ以外の顧問、生徒で試合参加可。

③ 【学校で罹患者が出了場合】

ア 対応が決定するまでの間の臨時休業中に大会が実施される場合、校長は試合参加の辞退を専門委員長に連絡し、専門委員長は高体連事務局に報告する。

イ 臨時休業実施の規模及び期間が決定された場合、該当規模及び、期間に当てはまる生徒の出場はさせない。

(2) 大会当日の各会場における対応（発熱等の風邪症状、息苦しさ、強いだるさ等の症状がある場合）

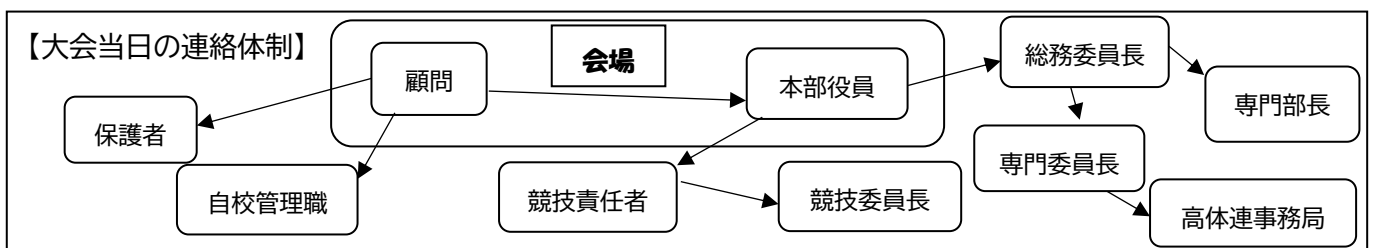
① 顧問は保護者へ連絡し、当該生徒を安全に帰宅させ、症状がなくなるまで自宅休養するよう指導する。

② 顧問は大会本部役員に報告するとともに、自校管理職へ報告し、保護者に連絡し帰宅させる。

③ 大会本部役員および顧問は保護者に引き渡すまでの間、会場にとどまるケースを想定し、他の者と接触を避けられるよう、別室で待機させるなどの配慮を行う。

④ 顧問及び管理職は居住する自治体の定めにしたがって、「帰国者・接触者相談センター」や保健所等に相談するよう家庭に連絡し、経過について学校に継続的に連絡させる。

⑤ 大会本部役員は、専門委員長に報告し、専門委員長は高体連事務局に報告する。

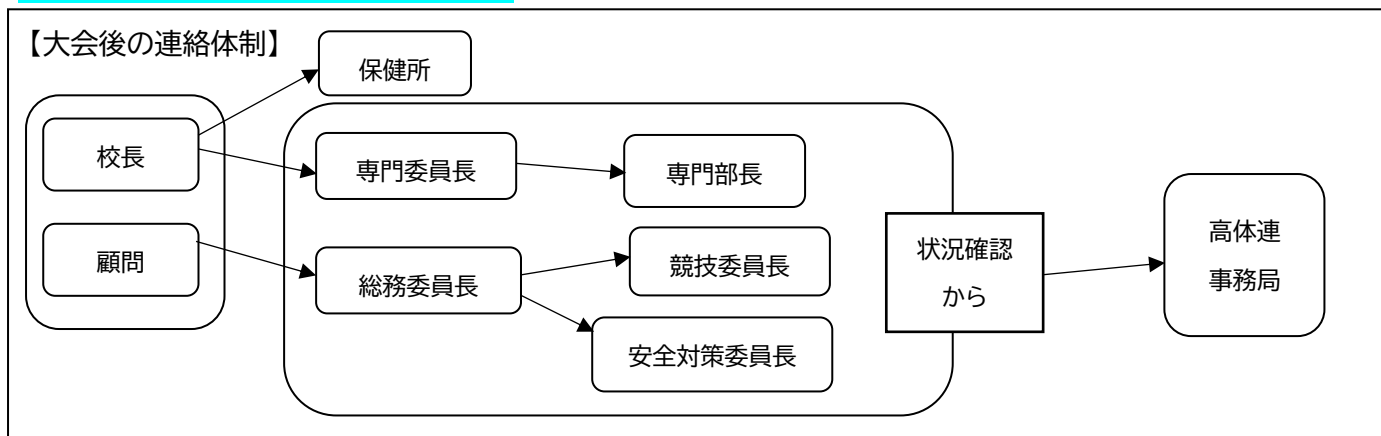


(3) 大会終了後2週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合の対応

※各学校での対応

- ① 学校は、保健所の指示に基づき、当該生徒の情報収集、濃厚接触者の特定、他の生徒等及び教職員の健康状態を把握する。
- ② 顧問は、総務委員長に報告する。総務委員長は競技及び安全対策委員長と連絡を取り、情報を確認するとともに、専門部長・専門委員長と対応について確認する。
- ③ 顧問は、保存している【別紙1】、大会当日の日程、出席生徒の行動記録等を学校及び保健所に情報提供する。
- ④ 専門部は、保存している【別紙2】、【別紙3】及び大会当日の日程、待機場所、会場にいたチーム等運営の詳細等を学校及び保健所に情報提供する。
- ⑤ 校長は専門委員長へ連絡し、専門委員長は各会場の大会本部役員と状況確認をした後、高体連事務局に報告する。

※ただし、令和4年3月時点で主流になっているオミクロン株における大会での陽性者がいた場合の連絡については別項 (P.13) の通り対応する。



(4) 濃厚接触者となった場合の対応

濃厚接触者は「感染者と最後に濃厚接触をした日の翌日から起算して2週間の出席停止」の措置をとる。
⇒濃厚接触者となった者は自宅待機とするが、それ以外の指導者、生徒は試合参加可。

※濃厚接触とは【参考/濃厚接触者は保健所が判断します】

<出典:厚生労働省「新型コロナウイルスに関するQ&A」(一般の方向け)令和3年3月2日時点版>
新型コロナウイルスに感染していることが確認された方と近距離で接触、或いは長時間接触し、感染の可能性が相対的に高くなっている方を指します。濃厚接触者かどうかを判断する上で重要な要素は上述のとおり、1.距離の近さ 2.時間の長さです。必要な感染予防策をせずに手で触れること、または対面で互いに手を伸ばしたら届く距離(1m程度以内)で15分以上接触があった場合に濃厚接触者と考えられます。

※ただし、令和4年3月時点で主流になっているオミクロン株における大会での陽性者がいた場合の連絡については別項 (P.13) の通り対応する。

5 審判員について

(1) 試合当日までの流れについて

JBA から配信されている「2020 年度臨時ブロック・都道府県審判長ウェブ会議 会議録の送付」の資料内の記載にもあるように、今後の審判活動の再開にあたり、審判員として参加を希望する場合（各種大会の審判、練習ゲームの審判、講習会・研修会に参加）は、以下の2点が必要となる。

- ・「健康チェックシート（自己管理用）」に記録
 - ・「健康チェックシート（提出用）」の提出（各種大会、練習ゲーム、講習会・研修会に参加の際に提出）
- 健康チェックシート（自己管理用）を使用して毎日の検温を記録し、健康チェックシート（提出用）に転記できるようにしておく。 ※割当の際には、2週間前からの記録が必要。

(2) 試合当日の流れについて

- ① 参加審判員は「健康チェックシート」を会場の審判主任に提出する。審判主任が審判をしている場合もあり、審判主任に直接提出できないときは、大会本部役員に提出するなど、協力して回収をする。
- ② 参加審判員は「審判主任用 新型コロナウイルス対応版 チェックリスト」に基づき、事前の準備、会場内での行動に注意する。割当のある試合の1時間前に集合すること。審判終了後の振り返りミーティングは行わず、速やかに帰宅すること。
- ③ 試合中はホイッスルカバーを着用し飛沫防止に努めることとする。（12/2 実施 JBA 臨時全国審判長会議資料 p.5 より）
- ④ マウスカバーについても着用することを推奨し、感染拡大防止に努める。
- ⑤ 会場の審判主任は「審判主任用 新型コロナウイルス対応版 チェックリスト」に基づき、会場の環境整備を心掛ける。
- ⑥ 会場の審判主任は「健康チェックシート」を会場のコート主任へ提出する。また、審判主任用のチェックリストを提出する。

(3) 大会当日の各会場における対応（発熱等の風邪症状、息苦しさ、強いだるさ等の症状がある場合）

- ① 審判主任は、当該審判員を安全に帰宅させ、症状がなくなるまで自宅休養するよう指導する。
- ② 審判主任は大会本部役員に報告する。
- ③ 大会本部役員および審判主任は、他の者と接触を避けられるよう、別室で待機させるなどの配慮を行う。
- ④ 大会本部役員は、専門委員長に報告し、専門委員長は高体連事務局に報告する。

6 その他

(1) 往復の移動について

会場への移動等は各学校で責任をもたせ、**集団感染のリスク（3密の条件）を避けさせること。**

(2) 顧問が生徒に用意させるものについて（依頼）

以下のものは専門部でも予備を用意しますが、生徒数の関係で不足する可能性があります。各チームでそれぞれ準備をして、運営の協力をお願いします。

・手指消毒液（生徒人数分）

皮膚が弱い生徒については、各自で個別の対応ができるようご準備ください。

・消毒用雑巾（生徒人数分）

チームで使用した場所の消毒を行う際に使用します。なお、ゴミの削減と会場校の安全を確保するためにペーパータオルは用意しません。必要があれば、チームで用意し、ゴミの持ち帰りにご協力ください。

・外靴入れ（バッシュケースとは別のビニール袋）

バッシュケースに直接外靴を入れると、外からのウイルスを体育館内に入れる可能性が高まります。そのようなことがないよう、外靴入れを別に用意するようご指導ください。

(3) 消毒グッズについて

消毒グッズは次回の大会でも使用するため、そのまま学校保管していただくか、安全対策委員に返却していただくことになります。安全対策委員より指示を出しますので、その指示に従ってください。中身の補充に関しても、必要に応じて対応していきますので、支部の安全対策委員にご連絡ください。

(4) JBAからの推奨項目について

JBAは今回のガイドライン改定に当たり以下のことを推奨しております。

①大会前2日以内の対外試合について

濃厚接触者判定を避ける意味でも、自チーム以外との対外試合を行わないことを推奨します。

②ワクチン接種について

大会前のワクチン接種により副反応が発生し、発熱や倦怠感によるコンディションの低下を避けるために、大会1週間前のワクチン接種は避けることを推奨します。

③新型コロナウイルス感染症罹患後のスポーツ復帰について

罹患中の重症度により、段階的に復帰することが望まれます。診断確定後2週間は、継承または無症状であっても運動休止が望ましいとされております。（JBAガイドライン9/9版 p.5）

詳しくはJBAガイドライン9/9版をご確認ください。

(5) オミクロン株 (BA.1 株) への対応について

県高体連事務局からの通知（3月16日付）に基づき、令和4年3月時点で主流になっているオミクロン株による感染に関しては以下のように対応します。

1 今後のオミクロン株における大会参加の可否について

次の事項に該当する場合は、参加させないこととします。

(1) 罹患した生徒等

- ・発症日を0日として翌日から10日間（体調により延長もあり）
- ・無症状患者の場合は検査日から7日間。ただし、10日を経過するまでは、検温等の健康状態の確認を行うこと。（なお、検査時は無症状でも、療養中に症状が出現したら、発症日を0日としてカウントし直し10日間の療養となります。）

(2) 濃厚接触者

- ・患者の感染可能期間内^{※1}に患者と接触した最終日を0日として翌日から7日間^{※2}。ただし、10日を経過するまでは検温等の健康状態の確認を行うこと。
- ・同居する家族等の濃厚接触者とされた生徒等については、感染者の発症日又は感染対策を講じた日のいずれか遅い方から7日間。
 - ※1 感染可能期間内：有症状の場合は発症日の2日前から、無症状の場合は検体採取日の2日前から、診断後に隔離開始されるまでの間
 - ※2 令和4年1月28日一部改正厚生労働省通知「新型コロナウイルス感染症の感染急拡大が確認された場合の対応について」より

2 今後のオミクロン株における大会での陽性者がいた場合の連絡について

(1) 大会後に参加者の感染が判明した場合

- ・感染者の感染可能期間は、発症2日前（無症状者の場合は、陽性確定に係る検体採取日の2日前）となっていることから、文書通知の期間は、発症日（発熱等の症状が現れた日）から2日前に大会があった場合とします。

7 大会前～大会当日～大会後の流れ

	生徒	顧問	高体連専門部			専門部運営
			コート主任	大会本部役員	審判主任	
2週間前	各校使用の健康観察票を用いて、2週間分の健康チェックを行い、健康であることを確認すること。	練習の時から感染防止の対策をとる。生徒の健康状態を把握すること。			健康チェックシート(自己管理用)を用いて、2週間分の健康チェックを把握させる。	会場ごとの役員一覧を作成しコート主任に周知すること。
試合前日	【別紙1】を紙で手元に用意しておく。大会参加について保護者の承諾を得ること。 大会4日前までの発熱があった場合、出場しない。	【別紙1】が生徒の手元にあることを確認する。 【別紙2】を作成すること。 大会4日前までに発熱があった選手は参加させない。	チェックリストに従って準備を行う。 ※非接触型体温計が学校にない場合専門部より貸し出しを行う。	役員一覧に記載されている役員の健康チェックを行う。	審判割当を参考に、審判委員の健康チェックを行う。	
試合当日	生徒が会場に入る前	家で用意するもの ・マスク ・個人用飲み物 ・個人用タオル ・【別紙1】 (健康であることを前提として会場に来ること) 【別紙1】に必要事項を記入し、会場に持参する。忘れた場合顧問に申し出ること。 会場入場前に顧問から検温を受ける。	生徒持参の【別紙1】を回収する(顧問保管)。会場入場前に非接触型体温計で生徒全員の検温を行う。 【別紙2】を本部役員に提出すること。 生徒の中で①【別紙1】忘れ②マスク忘れ③検温忘れがいた場合、本部役員に申し出ること。	会場入り口及び所定の場所に消毒用アルコール等を設置し、会場内に入場する者が消毒出来る体勢を作ること。	・参加チーム顧問から【別紙2】を受け取る。もしも検温忘れやマスク忘れ、非接触型体温計忘れがあった場合、対応すること。 ・顧問・大会役員健康状況確認表【別紙3】を用いて健康状態を確認する。	健康チェックシート(提出用)を回収する。
	会場内	3密を避け、ガイドラインの指示に従い行動する。こまめに手洗いをして予防に心がけること。 マスクの装着により、例年より熱中症のリスクが増加するので、水分塩分補給に努めること。 体調が悪くなった際は申し出ること。	・顧問用チェックリストを活用し、適切な運営がなされているか確認する。	・出来るだけ目を配り、3密が防げるよう配慮すること。 ・コート主任用チェックリストを活用し、適切な運営がなされているか確認する。	・出来るだけ目を配り、3密が防げるよう配慮すること。 ・消毒の指示、確認を行う。 ・大会本部役員用チェックリストを活用し、適切な運営がなされているか確認する。	・審判主任用チェックリストを活用し、適切な運営がなされているか確認する。
試合後	・試合後2週間以内に体調不良になった際は、必ず顧問に申し出ること。体調に応じて受診し、結果を顧問に報告すること。❌	・試合後2週間以内に生徒が新型コロナウイルス感染症陽性と診断された際は、速やかに専門部へ報告すること。 ・【別紙1】を大会最終日から30日間保存する。❌	・【別紙2】【別紙3】と各チェックリストを回収し、専門部(安全対策担当)へ渡す。		・試合後2週間以内に審判員が新型コロナウイルス感染症陽性と診断された際は、速やかに専門部へ報告すること。	・【別紙2】【別紙3】を大会最終日から30日間保存する。 ・顧問から、新型コロナウイルス感染症陽性の報告を受けたら、フローチャートの通り報告する。

※ただし、オミクロン株における大会での陽性者がいた場合の連絡については別項(P.13)の通り対応する。

